

## 令和7年教育委員会 第6回定例会

1 日 時 令和7年6月26日(木) 13時30分開会 14時30分閉会

2 場 所 教育委員会庁舎1階 第1会議室

3 出席委員 教育長 中島正人  
教育委員 小澤倭文夫  
教育委員 黒田仁美  
教育委員 吉田敬徳  
教育委員 平井清子

4 欠席委員 なし

5 出席職員 教育部長 野呂武志  
教育部次長 山澤亮司  
学校教育支援室長 谷口剛  
学校教育支援室主幹(教育課程・研修担当) 瀧口博貴  
学校教育支援室主幹(学務担当) 南昭一  
生涯学習課長 中村寿春  
生涯スポーツ課長 木戸隆雄  
図書館副館長 海藤久仁子  
総合博物館副館長 藤田泰一  
教育総務課長 佐々木雅一  
教育総務課総務係長 深田友和  
教育総務課総務係 山内理恵子

6 傍聴人 なし

7 議 題

議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案

議案第2号 博物館協議会委員の任命案

議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案

議案第4号 職員の訓戒について

協議第1号 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の取扱いの改善について

報告第1号 第53回小樽市民大学講座について

報告第2号 第37回おたる運河ロードレース大会の開催結果について

報告第3号 公立高等学校配置計画案(令和8年度(2026年度)~10年度(2028年

度)) 及び令和8年度(2026年度) 公立特別支援学校配置計画について  
その他 寄附採納について

## 8 議 事

**教育長** ただ今から、教育委員会第6回定例会を開会いたします。  
本日の会議の議事録署名委員に、吉田敬徳委員を指名させていただきます。  
はじめに、お諮りいたします。  
議案第4号「職員の訓戒について」は、会議規則第13条第1項第2号により、協議第1号「令和7年度全国学力・学習状況調査結果の取扱いの改善について」は、同項第5号により、それぞれ非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

**各委員** (異議なし)

**教育長** では、そのように進めさせていただきます。  
それでは、「議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案」の説明をお願いします。

### **議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案**

**図書館副館長** 「議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案」について、御説明いたします。  
図書館協議会委員は2年の任期となっており、来る7月25日に任期満了となることから、図書館法第15条及び、市立小樽図書館条例第7条の規定に基づき、新たに10名の委員を任命するものです。  
資料1枚目、市立小樽図書館協議会委員名簿を御覧ください。  
新たに就任いただくのは、小樽市学校図書館協議会推薦の佐川聖明氏、同じく高木理恵氏、小樽市点字友の会会長の山村直子氏、絵本・児童文学研究センターEJ倶楽部会長代行の笹谷純代氏の4名、再任いただくのは、小樽市社会教育委員会推薦の松並るみ氏、小樽市父母と教師の会連合会推薦の同会副会長 佐藤範幸氏、北海道新聞小樽支社長の荒山和明氏、小樽市日本遺産地域プロデューサーの五十嵐敏美氏、FMおたるフリーパーソナリティーの渡辺大助氏の5名となります。  
公募委員1名につきましては、お手元に配布いたしました資料3枚目、「市立小樽図書館協議会公募委員 選考結果」を御覧ください。  
5月1日から30日まで、図書館協議会委員を市民公募したところ、4名の応募があり、「市立小樽図書館協議会公募委員公募選考要領」に基づき、6月4日に選考会を開催し、選考の結果、根本正一氏を公募委員として選考いたしました。  
根本氏は昭和35年生まれの64歳。市立小樽図書館を利用する中で、市民の知識向上と地域の活性化に、図書館の果たす役割がますます増加すると感じ、寄与したいと考え、応募されました。

応募小論文の内容から、読書習慣を育てるための小中学校連携や、地域住民ニーズの反映といった御意見が期待できるため、委員に決定いたしました。

以上、新たに就任される委員5名、再任いただく委員5名の、計10名となります。

なお、任期につきましては、令和7年7月26日から令和9年7月25日までの2年間となります。

以上、御審議のほど、よろしく申し上げます。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

**各委員** (なし)

**教育長** それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「議案第2号 博物館協議会委員の任命案」の説明をお願いします。

### **議案第2号 博物館協議会委員の任命案**

**総合博物館副館長** 「議案第2号 博物館協議会委員の任命案」について御説明いたします。

小樽市博物館条例第8条に規定する博物館協議会委員は資料の1枚目のとおり、現在、学識経験者、一般公募など9名で構成されており、その任期は令和6年8月2日より、2年間の8年8月1日までとなっております。

そのうち、北海道旅客鉄道株式会社から学識経験者枠で委員をお勤めいただいていた伊藤美由紀氏が、令和7年6月1日付けの同社社内人事異動により小樽駅を離任されたことにより、後任の小樽駅長の五十嵐直人氏を任命するものであります。なお、御本人よりすでに内諾は頂いており、これにより同協議会は資料2枚目のとおりの構成となります。

なお、任期につきましては定例会の議決日から前任者の残余機関である令和8年8月1日までとなります。

以上について御審議をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

**各委員** (なし)

**教育長** それでは、本件を終了いたします。

続きまして、「議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案」の説明をお願いします。

### **議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案**

**生涯学習課長** 「議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案」について、御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、社会教育法第15条の規定により設置しております、

社会教育委員12名のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を委嘱するためであります。最初のページが新委員の一覧表、次のページが旧委員の一覧表になっており、交代する委員をゴシック体で表記しております。

交代する委員であります。社会教育関係者であるNPO法人小樽スポーツ協会の横田久俊氏から委員辞任の申し出がありました。

後任として、同じくNPO法人小樽スポーツ協会から副会長である幸谷量章氏が推薦されたことから、委嘱を提案するものです。

なお、補欠の委員のため、任期は前任者の残任期間である令和8年10月3日までとなっております。

以上、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

**教育長** 本件につきまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

**各委員** (なし)

**教育長** それでは、本件を終了いたします。

続きまして、「報告第1号 第53回小樽市民大学講座について」の説明をお願いします。

### **報告第1号 第53回小樽市民大学講座について**

**生涯学習課長** 「報告第1号 第53回小樽市民大学講座」について、御報告いたします。資料のチラシを御覧ください。

小樽市民大学講座は、昭和48年度から市民の貴重な生涯学習の場として開催している事業で、令和7年度の講座が第53回となります。

今回お招きする5名の講師の方々ですが、9月1日(月)、外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一氏の講座を皮切りに、10月7日(火)は、小樽商科大学副学長の沼澤政信氏、11月15日(土)は直木賞作家の河崎秋子氏、11月27日(木)はレバンガ北海道社長の折茂武彦氏、そして最後の1月24日(土)は宇宙飛行士で日本科学未来館名誉館長の毛利衛氏に御講演をお願いしております。

会場につきましては、すべて小樽経済センターの7階ホールを予定しており、時間は、第1講座、第2講座、第4講座は午後6時30分から午後8時までとなっており、川崎秋子氏の第3講座及び毛利衛氏の第5講座は、午後1時30分から午後3時を予定しております。

また、資料の2ページ目(裏面)になりますが、受講料は、全講座受講する場合は5,000円、1講座の受講は1,500円で、7月1日(火)から、申込みの受付を開始いたします。

申込方法は、オンラインの専用フォーム、メール、はがき、電話など、いろいろな方法で申し込むことができるように進めており、受講料を直接持参して、受講券を購入する場合は生涯学習プラザと小樽市役所の地下売店での申込みとなっております。

様々な分野で活躍される一流の講師の話を知ることができる、またとない機会ですので、

今年もお時間がありましたら、受講くださいますようお願いいたします。  
御報告は以上であります。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。  
よろしいでしょうか。

**吉田委員** お聞きしたいのですが、7月1日から8月22日が申込み期間ということで説明されておりますけれども、この8月22日を過ぎて申し込みたいという方がいらっしゃった場合は、どういう対応になるのか教えていただければと思います。

**生涯学習課長** 申込みの状況にもよるかと思うのですが、もし席に余裕があるようであれば、こちらで対応したいと思います。

**吉田委員** 8月22日が締切りで、例えば最後の1月24日の講座に申込みいただくと、半年近く先になってくるので、なかなか予定が立てにくかったり、申込みがしづらくなってくるのではないかというのが、この申込み期間を見て少し感じたところでございました。

今回はもう具体的なチラシというのも完成しかけているということだと思いますが、今後は、もう少し柔軟な申込み期間でもいいのではという気がしました。より多くの方に御参加いただけるきっかけにもなってくると感じましたので、可能であれば御検討いただければと思います。

例えば、各開催の何週間前とかそういったような申込みの仕方とかもあるのではないかと思います、意見として申し上げさせていただきたいと思います。

**生涯学習課長** 申込期間につきましては、5講座通しての受付ですとか、または各講座単件ということで御購入いただけるようにしていますけれども、やはりその仰られたとおり期間が長いこともございますので、単件での対応ですとかそういうのにつきましてはホームページですとか、報道機関への依頼、広報おたるも含めましていろいろ工夫をしてより多くの皆さんにお集りいただけるように周知していきたいと思います。

**教育長** その他、何かございますでしょうか。

**各委員** (なし)

**教育長** それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第2号 第37回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」の説明をお願いします。

**報告第2号 第37回おたる運河ロードレース大会の開催結果について**

生涯スポーツ課長 「報告第2号 第37回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」報告いたします。

去る6月15日に第37回おたる運河ロードレース大会が開催されました。

当日は、教育委員の皆様には、朝早くから御臨席を賜りまして、誠にありがとうございました。今大会は5km、2.3kmスタート位置の変更、港湾給水所の新設などありましたが、たくさんのボランティアの皆様の協力を得て無事に終了することができました。

お手元の資料では、本大会につきまして、申込状況、完走者数の状況等を種目別に記載しております。

まず、報告第2号①の開催結果を御覧ください。

申込者数は合計で2,733名と前回大会の申込者数1,866名と比較しますと、867名の増加となっております。

当日の完走者は2,537名、完走率は申込比で92.8%となっております。前回の完走者は1,707名、完走率は申込比で91.5%であり、昨年よりもポイントが高くなっておりますが、今年は天気もよかったので申し込みされた多くの方が出走を取りやめることなく参加されたのではないかと考えております。

中段には、当日の天候の状況を記載しておりますので御覧ください。当日の朝方、レース開始の9時頃は曇でしたが、その後、晴れとなりました。気温は22.0℃前後であり、湿度も高く、風速も弱かったため、ランナーにとっては暑かったものと思われま

す。ゴール後、アレルギーの症状が出た方が救急車で搬送されましたが、無事を確認しております。

ほかには大きな事故等については報告されてお

りません。下段には、地区別参加申込状況につきまして、記載しておりますので御覧ください。

小樽市民の参加は昨年に比べ396名増加し1,077名で参加者の39.4%、札幌市からの参加につきましては、昨年に比べ287名増加し1,140名で参加者の41.7%となっております。小樽、札幌以外の道内からの参加は377名で参加者の13.8%、道外からの参加は139名で参加者の5.1%となっております。前回大会と比べ、全体的に参加者数が増加しております。これにつきましては、申込みを2月から始めたこと、参加資格を緩和し、小学1年生から参加できるようにしたこと、コスプレや親子で走れるよう、小学生と同じ距離を走る、順位付けをしないファンラン種目を設けたこと。札幌圏へのポスター掲示や要項の配布など昨年に引き続き、継続的に広報を行った結果だと思われま

す。次に、報告第2号②の競技結果を御覧ください。年齢・性別で分類した24部門の3位までの入賞者を記載しており、5km男子中学生の部では、長橋中学校の桑原さんが優勝、5km女子中学校の部では、西陵中学校の石川さんが3年連続で優勝。小学4年生以上女子の部では、稲穂小学校の石川さんが優勝、小学4年生以上男子の部を上回る成績でありました。その他の結果につきましては、後ほどゆっくり御覧いただければと存じます。

次に、報告第2号③、④を御覧ください。

③が所属団体部門「勝手にランキング戦」の結果になります。「勝手にランキング戦」とは、5名以上のエントリーがある団体を対象とし、上位入賞者に勝手にランキング付けをして賞状等を送付しているものです。昨年より5団体増え、16団体がエントリーとなりました。

1位が「ちばりよ～RC」で、上位3名の平均タイムが35分37秒でした。

次に、④が学校対抗部門になります。5名以上の参加者がいる学校を対象としており、対象全学校の順位を掲載しております。小学校部門は今年は小学1年生から参加可能としたため、小学1年生から3年生までの低学年部門、4年生から6年生の高学年部門に分けて上位3名の平均タイムで順位付けをし、小学校は5位まで、中学校は3位まで表彰しております。

最後になりますが、今大会は小樽観光や次回大会の参加者数の確保になるよう、小樽観光協会の協力のもと参加者全員に市内観光施設の割引クーポンの配布を行いました。また、市内事業者様の御協力により、参加者全員に朝里川温泉にあるサウナ施設オタルアーチの割引券、湯の花の割引入浴券、大高酵素のイオンハウス割引券、アルペンの割引クーポン券、オタルボウル1ゲーム優待券、ウイングベイ小樽内にあるナムコのクレーンゲームスペシャルチケットなどの配布を行うとともに、抽選会の景品としては特賞の新日本海フェリーペア乗船券をはじめ、オタルアーチ、ニトリの小樽芸術村、運河クルーズ、イオンシネマなどの招待券、東洋水産カップ麺やオーセントホテルビーフシチューなどほかにもたくさんの協賛品をいただき、ランナーへの景品として提供いたしました。

なお、昨年に引き続き、学校側の積極的な御協力をいただき、参加資格のある小学校1年生以上の児童生徒全員に、大会チラシを配布し、また、参加の呼びかけをしていただき、その結果、市内小中学校の参加者数は前回大会より、大幅に増加したものであります。

今後、今大会の反省点等について集約、とりまとめを行い、実行委員会を開催して、次回大会に向けて協議していくこととしております。

報告は、以上であります。

**教育長** 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

**黒田委員** お疲れ様でした。私の個人的な感想で申し訳ないですが、今回は何かすごく良かったと思っており、この参加賞の充実というのがランナーの方たちはすごく喜んでいただくと、夫も参加したのですが、やはりあれを貰ってくるとすごく嬉しいです。なんかこう頑張った御褒美ではないですが、たとえ賞に絡めなくても何か、こういう参加特典があって自分も参加して楽しかったということにすごく直結する。割引券などはそういう特典だと思いますが、これが大幅に増えた印象があったので、それがすごく良かったと思いました。

あと前は雨だったので表彰が中止になってしまったのですが、前々回から比べると表彰までの流れがすごくスムーズだったというふうに感じました。今まではゴールしてから表彰が始まるまで結構な待ち時間があって、あと表彰する方的人数が少し多かったように思えて、結局、表彰されるまでの待ち時間とそれが終了する時間というのがすごく長かったと思いますけれども、今回は、ものすごいスピードで賞状を用意して本当にすぐ表彰が始められた、何かその工夫が素晴らしかったという感想を持ちました。

あと、私たちは本当にテントの中で何もできずに大変申し訳なかったのですが、教育委員会の皆様の働きが、とにかくもう朝の交通整理から始まって、大会中も皆さん結構ランナー並みの全力で走り回りながら働いてる方がいらっしゃったので、その方たちも是非労っていただきたいと、本当に感想で申し訳ないですが、素晴らしい大会だったと思います。

**教育長**            ありがとうございます。その他、何かございますか。

**小澤委員**        今年も参加しまして、運営が非常にスムーズで良かったと思っておりました。その中で、黒田委員からお話があった中で、表彰までのスムーズな進め方が、表彰を3位までにされたことと関係があるのかなと思います。それについて例えば前年度は雨で中止になりましたけれども、それまでは6位までだったと思うのです。何か参加者の方からやはり6位までがいいとか、そのような要望があったか、無ければそれで来年度以降もそういう方向で良いと思っていたのですが、その辺り何かお声があれば聞かせていただきたいと思います。

**生涯スポーツ課長**   今のところは、今回3位までの表彰だったのですけれども、6位までにしてほしいという意見はまだ届いていない状況です。今回、部門を少し多く設けたものですから、それをスムーズにこなしていくには、6位だと流石にまごついたりするような印象を受けたものですから、入賞者には申し訳なかったのですが、3位までに入賞された方々に表彰する形にさせていただきました。

                  今回もう少しご意見とかがあればそういったことは検討していこうと思いますけれども、問題がなければ3位という形でスムーズに運営していきたいと考えております。

**小澤委員**        私も今年のような運営の方が、大会に向けての準備と大会中に比較的短い時間で次々展開できて、大変良かったと思っているので、3位で特に問題がなければ、それを継続してよろしいと思っておりました。

                  あと参加してみて気が付いたのが、今年は選手の控えテントというのですか、大型のテントが設置されました。たまたま私の知り合いも参加していたものですから行って見てみたのですが、皆さん、表彰後ではありましたが、それぞれグループになってお話しをされていて、少し日陰にもなるのですごく良かったと思って見せてもらいました。

                  それからもう一つ、二つほどあるのですが、一つは小学校1年生の参加人数というのはわかりますか。

**生涯スポーツ課長**   1年生の人数はわかりません。

**小澤委員**        何人かいたと思います。チラシを見ていましたら、チラシの中には親子での参加も大歓迎と書かれていて、これを見ていたまたまその知り合いは、親子でと書いていましたけれども、祖母と孫とでした。孫が出たいと言うので、一緒に走ったのだとのことでした。それ聞きながら、ロードレースですから当然自分のベストを更新するという、より良くまた皆さんとの関連の中で上位の記録を収めることが目的にあるということ、それは当然のことだと思うのですが、そういう観点と共に、小樽市の児童生徒の体力・運動能力の状況を見ますと、いろいろな課題が示されてきた。その中で、親子で参加して、タイムは二の次として一緒に親子で走る。そういう機会が設けられるというのは、それが機会になって運動に興味を持って、そのあと例えば2年生、3年生になって、今度はファンランでない申込みをすると

いうことにも繋がるだろうし、それがゆくゆくは小樽の子どもたちの運動能力の向上につながるというようなことも予想されるので、今回の取組みはそういう点でも非常に、幅広く対象を考えていただいたとっておりましたので今後とも続けていただければと思います。

最後に、このことは今後の課題にしてほしいと思います。たまたまトイレに行ったのですが、それなりにキレイにはなっていたのですが、観光都市小樽ですので、もう少し照明が明るいか、そういう面で中がより清潔感があるようになっていて良いなど、特にマラソンランナーは必ず使うと思うので、そういう点ができたらより良いと思ったのでお話しします。

**生涯スポーツ課長** トイレの件につきましては、こちらからこういった意見があったということはお伝えさせていただきたいと思います。また委員が仰ったように、やはり親子で走りたいという方がたくさんおられて、今仰ったお孫さんと一緒に走られる方もいるということで、確かに私どもも子供の体力向上に、ある程度楽しんで体力を付けていただくことのきっかけ作りになったのではとっておりますので、このようなファンラン種目というのは今後も継続していければと考えております。

**小澤委員** 親子で参加した人たちも、それぞれの学校の参加がわかったら、是非その学校として体力の向上に励むということももちろん必要だと思いますし、今までやっていただいていると思いますけれども、親子で出るというのもこれは社会スポーツですから、そういう点でも是非、例えば何々小学校では1年生出るとして、或いは3年生も含めてこうやってファンランで参加していただいていたというようなお声掛けもしていただけると、よりすごく趣旨が活きるかなと思いました。その点も併せてお願いします。

**生涯スポーツ課長** 委員の意見を参考にしながら、来年も努めて参りたいと思います。

**教育長** 学校ごとに、親子で参加した人数というのをつかんでいるのですか。そういうのは作っていないのですか。

**生涯スポーツ課長** ファンランはファンランという形で申し込んでいるので、一緒に申し込んでるわけではないのでわかりません。何かそういったことを上手く紐づけできるような形が来年取れるようであれば進めたいです。

**教育長** 参加された保護者の皆様へのお礼などを学校から声かけてもらうということは良いことかもしれませんので、それは校長会等で我々も含めて校長先生方にはお伝えしていけると思います。その他で委員の皆さんからロードレースに関して何かありませんか。

**吉田委員** まずは、今年大きく参加者が増えて、大変良かったと思っております。前回から数百人単位で増えており、ファンランだったりいろいろな理由があると思うのですが、是非来年以降もどんどん参加者を増やせるように進めていただきたいと思います。その上でですけれども、結

果表を見せていただくと、昨年もそうですが、結構市内の小中学生が活躍されていて、上位入賞されているのがこちらにお伝えされているかなと思います。この結果というのは各学校にお知らせされているものなのでしょうか。

**生涯スポーツ課長** ランキングの上位に入ったところにはお知らせしていますが、実際にこの学校はこの順位でしたとか、何名参加していますということはお伝えしていませんが、完走賞というのを学校単位でお送りしていますので、何人の方が完走したかというのはわかるようになっております。

**吉田委員** 順位は学校にお知らせされているのでしょうか。あなたの学校の誰々が何位になりましたというような。

**生涯スポーツ課長** それにつきましては、インターネットで順位が出ていますので、それを検索していただくと何位だというのは見ることができます。ゼッケン番号で調べることができますので、参加した生徒のゼッケン番号がわかれば、検索していただくと順位はわかると思います。

**吉田委員** 調べればわかるというのはそうかもしれないですけども、要は各学校で1位から3位までのすごく頑張った生徒のことを、学校側がきちんと把握してるのかというのがありまして、せっかく1位ですとか2位、3位を取ってすごく頑張った生徒のことは、できれば学校にお知らせするような仕組みがあると、学校の中で例えば校長先生なり担任の先生から褒めるというか、何かしら言葉があるのではないかと思います、そういったような形でお知らせするようなことができれば良いと思いました。

あと小学校の校長先生が当日いらっしゃったのでその場で写真を撮ってすぐ送って、活躍しましたとお知らせさせていただいたんですけども、何かそういった形で、終わってすぐにも、順位が出た段階で各学校にお知らせしていただくと、学校側から生徒たちに対しての言葉っていうのもあるんじゃないかなと思います。是非、頑張った生徒を褒めてあげられるような機会を作ってあげられれば良いなと思って意見させていただきました。

**生涯スポーツ課長** ここに載っている生徒、3位までになりますけれども、その生徒がいる学校にはこの方々が入賞していますよということは賞状を配るときに何か入れて渡したいと思います。

**教育長** せっかくエントリーしてくれた子どもの結果を、学校が参考として知っておくということは、子供一人ひとりの励みにもなると思うので、ぜひ吉田委員から御指摘のあったように、何とか学校にお伝えできるように工夫していただくよう、よろしく願いいたします。他にございますか。

**平井委員** お疲れさまでした。すごく盛況で、申し訳ないですけども、今までほとんど参加という

か見たことがなくて、本当にこんなにすごいのだと少し感動したのです。これを見ると、道外からですけれどもバスもいらして、今年ふるさと納税でも出していたということを知っていましたが、ふるさと納税で参加された方はどれくらいいらっしゃるのですか。

**教育部長** 確かそれほど多くはないです。9名とか10名とか。

**平井委員** 9名でもすごいと思うので、継続してもらったら、皆こういうのがあると行って、道外からも小樽見学ついでに来る方がいるので、ぜひ。今年は特に天気も良かったので素晴らしかったです。お疲れさまでした。

**教育部長** 来年もやるには、もう少し開催時期を決めるのを早くして、できれば年末に向けて、来年の出走権がありますということを出せると。ふるさと納税は年末にやる人が多い。それでももう少し前倒しする。今年は2月からですから、それが2か月くらい前倒しできれば、もう少し募集が増える気はします。

**平井委員** 是非やってもらいたいと思います。

**生涯スポーツ課長** わかりました。検討してまいります。

**教育長** エントリーが増えた分、準備も大変になって、本当に当日だけではなく、当日を迎えるまでも、スタッフそれから職員の準備の量といたらすごいものでしたので、本当に改めて感謝を申し上げますし、課長から労いの言葉をかけていただければと思います。大盛況に、大成功に終わって本当にうれしく思います。ありがとうございました。御苦労様でした。

それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度））及び令和8年度（2026年度）公立特別支援学校配置計画について」の説明をお願いします。

### **報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度））及び令和8年度（2026年度）公立特別支援学校配置計画について**

**学校教育支援室主幹（学務担当）** 「報告第3号 公立高等学校配置計画案（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度））及び令和8年度（2026年度）公立特別支援学校配置計画案」につきまして、御報告いたします。

お手元の資料は、道教委が今月3日付で示した、公立高等学校等の配置計画案を掲載したものです。

はじめに、北海道全体について御説明いたします。2ページから8ページは、配置計画案として概要及び内訳を示しております。

はじめに、2ページをご覧ください。公立高等学校配置計画案について、令和8年度から

順に御説明いたします。

「4 配置計画の概要」の「(2) 令和8年度高校配置計画の変更」の「① 地域連携校の導入」につきましては、教育環境の維持向上を図るため、新たに芦別高校、上川高校及び池田高校を地域連携校とすることが示されております。

「(3) 令和9年度高校配置計画の変更」の「全日制課程」「学級減・学科転換」につきましては、1学級減とする北見商業高校について、商業科及び情報処理科を、情報会計科に学科転換することが示されております。

その下の「(4) 令和10年度高校配置計画」の「全日制課程の①学級減」では、通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、小樽桜陽高校など6校で各1学級の減を行うことが示されております。

続きまして5ページを御覧ください。

「4 配置計画案の学校別内訳」の「(2) 学級増減」の下の表「②学級減」では、令和8年度から10年度までの全日制課程の学級減が示されており、令和8年度は、1校において1学級、令和9年度は、2校において2学級、令和10年度は、小樽桜陽高校を含む6校において6学級、合計9校において9学級の減が示されております。

続きまして、14ページ「後志学区高校配置計画」を御覧ください。

14ページの表、上段には、後志学区内と、その内の小樽市内の中学校卒業生数の推計が示されており、令和11年度から14年度までの中卒者につきましては、令和10年度の卒業生数推計を基準といたしますと、後志学区内では200人、うち小樽市内では99人の減少が見込まれております。

表の中段から下段には、令和7年度の各公立高校の欠員等の状況や、令和8年度から10年度までの、学級数の増減についての計画案が示されております。

先程ご説明いたしました、令和10年度に小樽桜陽高校の1学級減が示されているほか、令和8年度に、定時制のニセコ高校が、設置者であるニセコ町の決定により、農業科1学級の募集を停止し、総合学科2学級を新設することが記載されております。

また、ページの右側、令和11年度から14年度までの後志学区の見直しをご覧ください。

○の一つ目「4年間で公私比率勘案後3～4学級に相当する中卒者の減少」となることなどの見解が示されております。

このため、後志学区においては、○の二つ目、中卒者数や、欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市を中心に周辺市町を含めた公立高校全体の配置の在り方の検討が必要となることが示されております。

また、○の一番下5つ目、定時制課程につきましても、市内には小樽潮陵高校と小樽未来創造高校の2校ありますが、小樽未来創造高校は、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となるなど、小規模化していることから、生徒の進路動向を踏まえながら今後の在り方について検討が必要と示されております。

次に、特別支援学校の配置計画案について御説明します。

29ページを過ぎて、次にあります、令和8年度「公立特別支援学校配置計画案」の3ページを御覧ください。

市内には、特別支援学校が2校あり、3ページの2つ目の表にある高等聾学校の普通科は、

令和7年度と比較し令和8年度の学級数が1減となっており、3つ目の表の下から2つ目にある小樽高等支援学校は、令和7年度と8年度の学級数・定員に増減がない計画となっております。

また、7ページを御覧ください。

知的障害特別支援学校高等部の職業学科等の配置の見通しとして、表の下、欄外注釈には、道央圏については、さらに数年後、出願者数の増加が見込まれるため、既存施設等の活用による対応を検討する必要があると示されております。

報告は、以上です。

教育長 何か御質問等ございますでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、その他の報告で、「寄附採納について」の説明をお願いします。

#### **その他 寄附採納について**

教育総務課長 寄附が4件ございましたので、御報告いたします。

1件目は、公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会様から、ニュースポーツ普及のため、ボッチャボールセット5個、ボッチャレクリエーション用コート2枚、ランプ1台、合計72万7,100円相当を御寄贈いただきました。

当該法人は、令和元年から一般の方々の生涯スポーツの理解を深めるため、「パラスポーツキット」を全国の小中学校や地方自治体などに寄贈しており、この度、本市で申し込みを行ったところ寄贈先に選定されたものです。

2件目は、志和裕様から、小樽市交通災害遺児奨学資金基金に2万円を御寄贈いただきました。志和様からは平成12年より御寄附をいただいております、先月に引き続き今回で61回目、総額は74万円となります。

3件目は、北海道コカ・コーラボトリング株式会社様から、図書館に対し図書19冊、3万2,150円相当を御寄贈いただきました。図書館の正面玄関に設置している同社の自動販売機の令和6年度の売上げから1本につき10円分の図書を御寄贈いただいたもので、平成22年度からいただいております、今回で15回目、総額は55万9,730円となっております。

4件目は、福岡孝様から、図書13冊、2万6千円相当を御寄贈いただきました。この図書は、福岡様が自費出版されたもので、道内の豊かな自然環境や身近な自然災害と防災についての理解を深めるきっかけにしてみらいたいとの理由から御寄贈いただいたもので、市内中学校に配布しております。

報告は以上です。

教育長 何か御質問等ございますでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、本件を終了させていただきます。

ただ今から非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の皆様には御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

#### **協議第1号 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の取扱いの改善について**

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当）から、「令和7年度全国学力・学習状況調査結果の取扱いの改善について」説明し、小澤委員から意見があったのち、全委員一致により同意した。

教育長 ただ今から人事に関する案件の審議に入りますので、関係者以外の皆様は御退席をお願いいたします。

<部長／部次長／室長以外 退室>

#### **議案第4号 職員の訓戒について**

教育部次長から、「職員の訓戒について」説明し、全委員一致により可決した。

<非公開の審議終了>

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

以上をもちまして、教育委員会第6回定例会を閉会いたします。